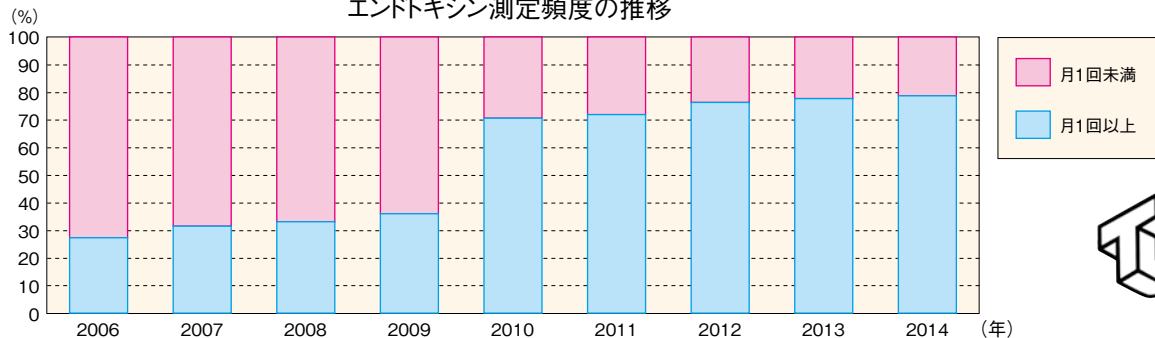


1) 透析液水質管理状況

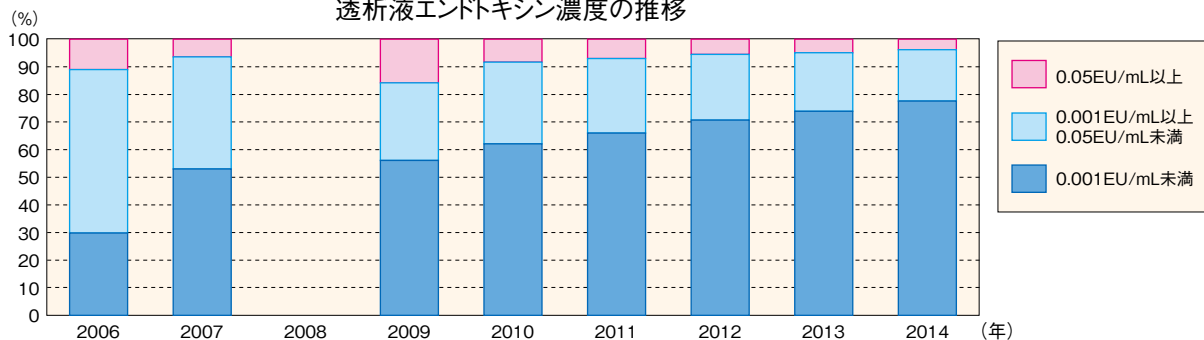
(5) 水質管理状況の推移① (図表32)

エンドトキシン測定頻度の推移



	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
月1回以上 (%)	953 (27.3)	1,153 (31.5)	1,253 (33.1)	1,373 (36.0)	2,810 (70.6)	2,914 (71.9)	3,141 (76.3)	3,238 (77.7)	3,329 (78.7)
月1回未満 (%)	2,535 (72.7)	2,511 (68.5)	2,531 (66.9)	2,436 (64.0)	1,170 (29.4)	1,137 (28.1)	977 (23.7)	929 (22.3)	900 (21.3)
合計 (%)	3,488 (100.0)	3,664 (100.0)	3,784 (100.0)	3,809 (100.0)	3,980 (100.0)	4,051 (100.0)	4,118 (100.0)	4,167 (100.0)	4,229 (100.0)
不明	185	209	244	193	92	99	77	65	69
記載なし	312	179	53	48	52	27	8	3	6
総計	3,985	4,052	4,081	4,050	4,124	4,177	4,203	4,235	4,304

透析液エンドトキシン濃度の推移



	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
0.001EU/mL未満 (%)	817 (29.8)	1,688 (53.0)	-	1,865 (56.1)	2,343 (62.1)	2,549 (66.0)	2,787 (70.7)	2,963 (73.9)	3,167 (77.6)
0.001EU/mL以上 0.05EU/mL未満 (%)	1,627 (59.2)	1,295 (40.6)	-	933 (28.1)	1,115 (29.6)	1,042 (27.0)	938 (23.8)	849 (21.2)	759 (18.6)
0.05EU/mL以上 (%)	302 (11.0)	203 (6.4)	-	527 (15.8)	314 (8.3)	271 (7.0)	216 (5.5)	195 (4.9)	153 (3.8)
合計 (%)	2,746 (100.0)	3,186 (100.0)	-	3,325 (100.0)	3,772 (100.0)	3,862 (100.0)	3,941 (100.0)	4,007 (100.0)	4,079 (100.0)
不明	-	215	-	253	105	112	197	148	164
記載なし	1,239	651	-	472	247	203	65	80	61
総計	3,985	4,052	-	4,050	4,124	4,177	4,203	4,235	4,304

※2008年は単位表記をEU/L→EU/mLに変更した年。誤記入が多かったと思われるため出力せず。

施設調査による集計

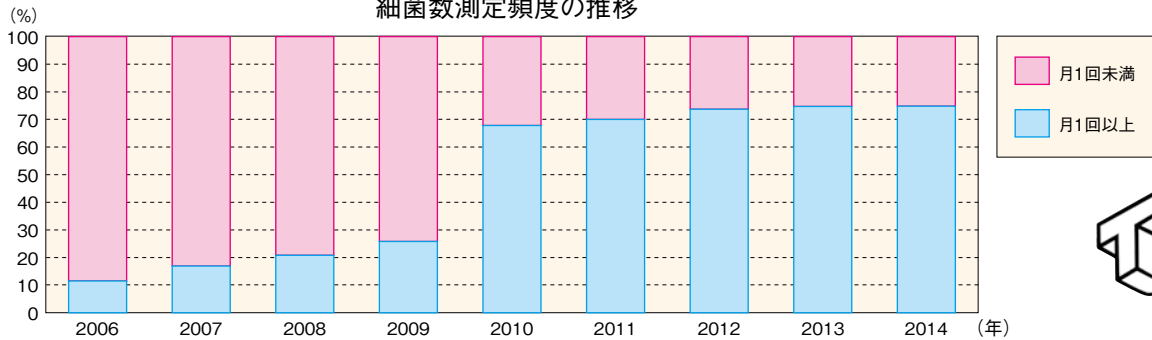
解説

前年に引き続き、透析液エンドトキシン濃度・細菌数およびそれらの測定頻度について、調査を開始した2006年からの推移を提示する。ただし透析液エンドトキシン濃度については、2008年調査において国際基準に合わせてEU/LからEU/mLに単位を変更した際に、誤記入が相当数あったと思われるため解析対象からは除外した。

2008年の日本透析医学会水質基準では、透析液エンドトキシン濃度と細菌数の測定は月1回以上を推奨し、すべての透析治療に超純粋透析液の使用を推奨し、遵守すべき最低限の水質として標準透析液を定めている。超純粋透析液の要件は、エンドトキシン0.001EU/mL未満（測定感度未満）かつ細菌数0.1cfu/mL未満、標準透析液はエンドトキシン0.05EU/mL未満かつ細菌数100cfu/mL未満である。

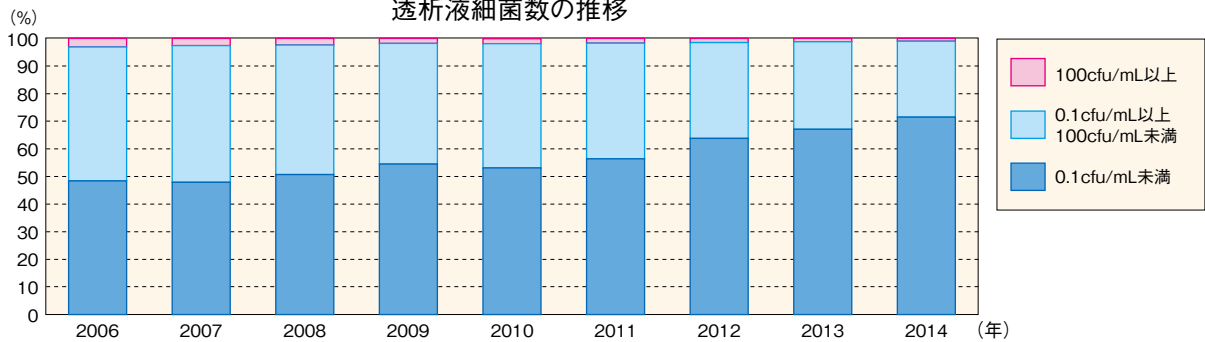
(5) 水質管理状況の推移② (図表32)

細菌数測定頻度の推移



	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
月1回以上 (%)	371 (11.5)	580 (16.9)	751 (20.8)	934 (25.8)	2,649 (67.8)	2,794 (70.0)	3,018 (73.7)	3,091 (74.7)	3,148 (74.8)
月1回未満 (%)	2,857 (88.5)	2,861 (83.1)	2,856 (79.2)	2,693 (74.2)	1,260 (32.2)	1,196 (30.0)	1,077 (26.3)	1,046 (25.3)	1,059 (25.2)
合計 (%)	3,228 (100.0)	3,441 (100.0)	3,607 (100.0)	3,627 (100.0)	3,909 (100.0)	3,990 (100.0)	4,095 (100.0)	4,137 (100.0)	4,207 (100.0)
不明	386	412	418	367	158	159	100	94	90
記載なし	371	199	56	56	57	28	8	4	7
総計	3,985	4,052	4,081	4,050	4,124	4,177	4,203	4,235	4,304

透析液細菌数の推移



	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
0.1cfu/mL未満 (%)	508 (48.4)	750 (47.9)	915 (50.7)	1,123 (54.5)	1,819 (53.1)	2,017 (56.4)	2,397 (63.8)	2,570 (67.1)	2,811 (71.5)
0.1cfu/mL以上 100cfu/mL未満 (%)	509 (48.5)	775 (49.5)	847 (46.9)	901 (43.7)	1,542 (45.0)	1,498 (41.9)	1,305 (34.7)	1,214 (31.7)	1,079 (27.5)
100cfu/mL以上 (%)	32 (3.1)	40 (2.6)	43 (2.4)	38 (1.8)	62 (1.8)	62 (1.7)	55 (1.5)	46 (1.2)	40 (1.0)
合計 (%)	1,049 (100.0)	1,565 (100.0)	1,805 (100.0)	2,062 (100.0)	3,423 (100.0)	3,577 (100.0)	3,757 (100.0)	3,830 (100.0)	3,930 (100.0)
不明	2,036	552	575	494	216	227	320	273	264
記載なし	900	1,935	1,701	1,494	485	373	126	132	110
総計	3,985	4,052	4,081	4,050	4,124	4,177	4,203	4,235	4,304

施設調査による集計

透析液エンドトキシン濃度について、月1回以上の測定は2009年末で36.0%であったが、2010年の診療報酬改定により70.6%にステップアップし、その後も徐々に増加し2014年末では78.7%であった。透析液エンドトキシン濃度は経年的に低下しており、2014年末において超純粋透析液を担保する0.001EU/mL未満の施設は77.6%、標準透析液を担保する0.05EU/mL未満を達成している施設は96.2%であった。

透析液細菌数測定は、2005年の日本透析医学会透析液水質基準には含まれていなかったが、2008年の改定でエンドトキシンと同様に月1回以上の測定が推奨された。2007年以前に月1回以上の細菌数測定を行っている施設は10%台であったが、2010年の診療報酬改定により、2010年には67.8%に急増し、以降徐々に増加し2014年末で74.8%であった。超純粋透析液を担保する0.1cfu/mL未満を満たす施設は徐々に増加し、2014年には71.5%であり、標準透析液以上を担保している施設の割合は99.0%であった。